第４回御殿場市市民協働型まちづくり市民会議
ワークショップ(3)　議事メモ

日時　　：平成１６年１０月８日（金）１９：００～２１：００
場所　　：御殿場市役所第５会議室
参加委員：１班（吉福、土屋、芹沢、鈴木（喜）、南、小林、渡辺）
　　２班（佐々木、関田、三井、鈴木（雄）、山本、勝間田）
事務局　：鈴木（地域振興課）
　　山本、福嶋（㈱ダイナックス都市環境研究所）

１　会長あいさつ（芹沢）

市民会議の芹沢会長があいさつを行った。

２　前回のワークショップのまとめ（ファシリテーター：山本）

前回ワークショップでの各グループのまとめについて、資料を見ながらダイナックスの山本が説明を行った。さらに、本日のテーマである「行政の課題」について、これまでの検討で出された意見を集約した資料について、説明を行った。

■会場から質問

委員Ａ　我々の市民会議の任期は１年だが、もう半分過ぎた。これまで小学校のグループ学習のようなことをしているが、いったい今何をしているのか疑問である。自分なりの視点や意見もあるし、行政に伝えたり、市民にも回覧板などで伝えたいと思っている。市民行政に携わっている方の話を聞き、これからの時代は市民の力で市民を良くしていく、というつもりで来た。

あるいは今日は「行政」というテーマで、色々な批判が出ることと思うが、ガス抜きということでいいのか。文句を言うのは簡単だが、その後どうするのかという建設的な意見がないと、どうしようもないのではないか。このまま行くと学習会のままで終わりそうだ。何ら市へ反映するものがない気がする。市民会議はどういう性格なのかを行政の方にお聞きしたい。

事務局　今までの行政の会議は、行政が指針や考え方をまとめて、市民の方々にこれでいかがでしょうかと出すことが普通であった。今回はいっさいそういうやり方をやめて、学習会などで出た問題点をファシリテーターにまとめて頂き、問題点を解決するための指針をつくっていこうという初めての試みである。市民会議での皆さんのご意見は、ＨＰ上で議事録を公開し始めており、随時市民の方々の意見をきくことにしている。皆さんの意見の細かい積み重ねが、形になって、枠組みが出来ていくのではないかと思っている。

まだ形が見えていないので、行政としても不安はある。しかし始まってまだ２回目であり、これから３回、４回と積み重ねていくことで、見えてくるものがあるのではないかと期待しているところである。

山本（ファシリテーター）　学習会という面もあるが、なぜやっているかというと、いきなり 10 人の人が集まって話し合いをしても、キャリアや立場が異なると話がかみ合わず、意見を集約しにくいという面がある。

先日、朝日新聞夕刊の一面に大和市の自治基本条例のことが掲載されたが、大和市の例では 180

回もの会議で、最初の 10 回はずっと学習会のようなことを行った。全く白紙で、条例とは何かということから始めた。そういう議論の積み重ねによって、大和市がどうあるべきかということが共有できるようになった。情報量も同じ位になり、お互いの考え方がわかるようになるので、対等な立場で議論できるようになるというのが１つの手法である。

確実に言えるのは、皆さんが議論したことを、指針あるいはマニュアルという形に、具体的にまとめていくということである。出された意見を整理すると、皆が考えていることがどういうことで、何が重要なのかというのが見えてくる。このため、今は学習会という雰囲気かもしれないが、積み上げていく作業をやっていきたい。従来のやり方とは違うかもしれないが、了解いただければと思う。

３　各班での検討作業

・２班に分かれ、各班での検討作業を進めた。
・班ごとにコーディネーター（進行役）を決め、討議スタート。

●今回のテーマ～協働のパートナーとしての行政、職員について考えるWS（７０分～休憩を含む）
① 協働のパートナーという観点から、行政の体制や意識について、評価してみよう。
② 行政に期待すること、協働を進めていくために行政への提案をしてみよう。
③ 意見をグループ化して、まとめよう。

【検討の様子】

4　グループ発表

各班のコーディネーターが検討の発表を行った。

1　班　（発表：渡辺）

・まずは職員のレベルが色々ということであった。この職員には話はできるが、あの職員には何を言ってもわからないなどということがある。またせっかく良い関係が出来ても、すぐに異動してしまって、新しく来た人にも当たりはずれがあるという状況である。
・このため、職員全体としての意識のレベルアップを図る必要がある。協働のパートナーにふさわしい人もいるし、無理な人もいる。無理な人にはもう少しがんばってほしい。そのために職員を育てる仕組みをぜひつくっていただきたい。
・協働のためには、元気な職員が不可欠なので、職員全体に協働意識を高めてほしい。
・一方、行政職員の意識だけではなく、市民側も行政依存の体質を改める必要がある。
・協働を進めるには、モデル事業が良いきっかけになるのではないか。モデル事業を行うことで、自分たちのものになり、協働が根付いていく方向に向かうのではないか。
・しかしなんと言っても、市のビジョンが必要である。まだしっかりとした方針がない。
・また、財政面には限りがあるが、財産区に「おんぶにだっこ」になっており、甘い考えが全体的に多い。こういう認識があると、協働が進みにくいのではないかと思う。

【ファシリテーター：山本より】
・職員の話から始まったが、意識のレベルが色々というより、「土台」が違うのではないかという批判もあったようだ。
・職員を育てる仕組みとしては、研修ということが１つ。また人事管理制度の問題もある。
・市民の元気を行政にも分けてほしいということだろう。

2　班（発表：勝間田）

・非常に多くの意見が出て、皆が行政のことをよく見ていることがわかった。

・問題点を大きく分けると、「専門性やノウハウの問題」「職員の意識の問題」「組織や体制の問題」「全体の方針・計画・ビジョンの問題」というようにまとめた。

・個別の問題点の中では、継続性ということで、３年で人事異動になると事業が途中で終わってしまう、中途半端で終わってしまうということがあげられた。

・組織の問題では、年功序列が強いということがあげられた。（高年齢で課長になるまではあまりがんばらないなど）

・全体的な問題としては、本当の意味で根幹となり、市民が賛同できるビジョンや政策がないので、市も市民も協力しようという気がなくなるということであった。

・このような状況を解決するために、横断的なプロジェクトチームをつくってはどうかという意見が出た。

・また、コミュニケーションルームのようなところで、市民と職員が雑談できるような仕組みができないか。会議の場では専門的な話だけではなってしまうが、もう少し気楽な感じで、自分はこう考えているのだがいいアイデアはないか、というような話ができれば良いと思う。

・さらに、市職員がもっとＮＰＯに参加してはどうかという意見があった。市民も行政も参加することで、互いの意識を高めていく。このことで職員の意識が変わり、市民も行政組織に対して何か提言できるようになるのではないだろうか。

【ファシリテーター：山本より】

・具体的な提案がたくさんあがったようだ。「市民が良い職員を誉める」というのは非常に良いアイデアだ。職員もやる気が出る。こういうことをやるＮＰＯがあると面白い。

・コミュニケーションルームというのは、ひざを付き合わせて本音で議論できる場をつくるということだろう。

・しかし一方で、行政と癒着しすぎるのも問題になり、微妙なところである。行政職員と市民との良い距離をどうつくっていくかというのは、重要なポイントである。

・東海大の荒木教授は著書の中で、協働とは「よいまちをつくるために、知恵を出しあい、ともに汗を流す」という説明をしている。こういうことであれば、行政職員の中でもすでにやっているという人がいるかもしれないが、市民にとってはもっと気配りをしてほしいなど、十分でないと思っていたり、行政と市民の意識にずれがあるかもしれない。

・これらの意見を今後、仕組みや制度につながるように、まとめていくことになる。

5　まとめ（ファシリテーター：山本）

・今回の議論を含めて、これまでの意見を整理して、次回には全体的な議論をしたい。

・市民会議で出された行政の課題については、行政の課長さんたちの協働の検討会が間もなく発足するので、そこに投げかけて検討してもらい、その結果を市民会議に返してもらうというように、キャッ

チボールをしながら今後は進めたい。

・他には市民と行政の間にたつ中間組織、ＮＰＯについてどう育てていくかというようなこともまとめていきたい。

■会場より質問

委員Ｂ　最近の法律改正で、市の施設の「指定管理者制度」ができたそうだ。こういう時期なので、この会議でも、施設面の議論もすることが必要ではないか。

山本（ファシリテーター）　協働の指針には、施設のこともうたっていく必要はある。指定管理者制度だが、実際のＮＰＯの中ではそれを担えるところが少ないという実情もある。ただし、制度が変わったことで、従来の役所の施設運営がＮＰＯや民間企業に委託され、夜遅くまで開館するなど柔軟な活動ができるようになる。こういったことを視野に入れて、今後検討していきたい。

６　事務局より報告（地域振興課：鈴木）

・次回 10 月 21 日は全体討論、11 月 2 日は世田谷まちづくりセンターの視察、同 11 日は視察での内容をふまえた話し合いを行う。さらに 12 月 2 日に年内最後の会議を開催する。

・ワークショップの形式は今回でいったん終了し、次回以降は全体での討論を重ねることとする。

・全体の回数はおおむね 10 回程度を予定している。

・検討の経過をＨＰ上で随時公開するので、ぜひ見ていただきたい。

・11 月 2 日に視察する世田谷まちづくりセンターの資料を配布したが、質問があれば次回の 21 日までに用紙に記入してほしい。とりまとめて先方に送ることとする。

以上